

きずな

学校教育目標「確かな学力と豊かな人間性を備え、
力強く生き抜く生徒の育成」

やる気スイッチを押すには

「やる気スイッチ君のはどこにあるのだろう」という塾のCMがありました。親はいつも我が子の「やる気スイッチ」



を押したいと思っているものです。

子どもを見ていると、ついつい、できていないところが目について、叱ってしまうことが多くなります。でもそれを繰り返していると、子どもに「自分はダメな人間なんだ」と自信を失わせ、自己肯定感を低くしてしまいます。ではどうすればよいか。「方法と言葉を工夫」してみるのはどうでしょう。親野智可等（おやのちから）さんという教育評論家が次のような『工夫』の例を挙げられています。

学校から帰るとランドセルを玄関に投げ捨て遊びに行く子どもに、

「ランドセルの中味を全部出したら遊びに行っても良いよ」

「宿題を机の上に出してからなら遊びに行っても良いよ」

といった、『とりあえず準備方式』

「1問だけやってから、でかけなさい」

といった、『とりあえず1問方式』

（中略）

こうすることで、だいたいの全体像が分かり、見通しが立ちます。見通しがついてから遊ぶことでプリントに取りかかるときの心理的ハードルが下がります。

叱るという否定的な言葉ではなく、このような工夫した肯定的な言葉を増やすことで、子どもは変わってくると思います。

もう一つ、子どもが何かに夢中になっていたら、「またつまらないことをやって」といわず、どんどん応援してあげましょう。熱中している状態は、「やる気が出ている状態」つまり「スイッチが入っている」のです。徹底的に熱中させることで、子どもは成長し、その成長は他の面にもいい影響を与えます。

一人一人の子どもが、違う「やる気スイッチ」をもっています。ぜひ、その子自身のやる気スイッチを押しましょう。

便利さの裏側

本年度、生徒一人一台のタブレットが導入され、授業でも活用されています。ネイティブスマホ世代の生徒たちはどんどん使いこなし、教師側が



追いつけない状態です。本当に便利になったものです。しかし、便利なものも使い方によってはとても怖いものになります。これからはICTも日常生活に不可欠なものです。刃物の正しい使い方を教えるように、ICTについても教える必要があります。大人が経験した危ない場面などを、どんどん子どもに伝えて行きましょう。

HP 閲覧ありがとうございます

HP を多数の方がご覧いただき
ており本当に感謝いたします。



これからも中学校の様子をどんどん発信して参ります。

まだご覧になっていらっしゃらない方は右側のQRコードからお入りください。CFの劇も動画で載せています。